

健康文化

一時的な頭脳明晰

宮田 伸樹

8月のある火曜日の朝、朝食の味がなんとなくおかしかった。舌の背が鈍感なようだ。大学に行ってから顔がこわばる感じがする。だんだんはっきりして、帰宅後は、顔の右半分が思う様に動かない。

家族には、顔面神経麻痺だから、これは重大な病気なんだから、私を大事にしないではいけない、と言っている処に丁度、弟（外科）と息子（内科）が来た。その顔つきはそうだわ、間違いないわ、顔面神経マヒだわ、ビタミン剤を服んどきゃ治るわ、と口を揃えるので、重篤疾患ではない事になった。翌日は、もっと症状が明瞭になった。しゃべりにくい。しゃべれるんだがいわゆるロレツがまわらない（洒落でロレツ不全と言うのです。ロレツ不全は医学用語ではありません。心不全、呼吸不全などは医学用語です）。唇の右端からお茶がこぼれる。鏡を見るとはっきり左右不対称だ。右眼が完全には閉眼できないのは、困った。いつも少し開いているので、目が（専門的には角膜が）乾燥する。涙が出る、ゴロゴロする。強制的に瞼を下に押しさげれば閉じるのだが。

3日目になって、ついに内科の神経の先生に診てもらった。そうです、顔面神経麻痺です、症状は2、3日で完成するんです。ステロイド（副腎ホルモン）とビタミン剤の内服が必要です、早ければ2～3週、遅ければ2～3月かかりましょう。

その翌日、学長から私あてに、顔面神経麻痺だそうですね、すぐ学長室に来て下さい、でびっくりした。じつは、神経内科の先生は学長の御長男だった。薬はそれで良いでしょう、お大事に、と言われた。私は、喜んで、まず学長秘書室に寄り道をして、学長の伝言があると伝えた。宮田先生を大事にする様にと学長が言われた、学長が言われた事は秘書室を経由する全ての人に伝えなさい。

この頃、地区の医師会長や近隣の病院長との懇談会が相次いだ。学長や病院長のお供で私も出席する。私の顔は皆の目にとまる。

病院長は、顔面神経麻痺の治療の班会議のメンバーだった事がある。ステロイドは点滴が必要です、内服のみでは不足です、入院して点滴をする患者もいるんです。点滴ですよ。

懇談会では、アルコールが出る。病院長は顔面神経麻痺にはアルコールはいけないと言われる。学長は、おや、宮田さんのコップにはビールが入っていませんね。

学長も専攻は神経内科で、顔面神経麻痺は専門である。御二人の御意見が異なるので、さて、臨床医学の教授たる患者はどうすべきか。

大先生がたは、私を心配して、御好意で言って下さっている。やむを得ず点滴の件はしばらくは、そのままにしておいた。と言う事は内服だけになる。病院長の方が顔を合わせる事が多い。点滴を始めましたか、え、まだなんですか。何故ですか。

ついに、主治医に手紙を書いて判断をお願いした。医学的な判断だけじゃない判断までお願いしたのだ。分かりました、点滴を致しましょう。第1日目から第何日目まではこれこれ、その後はこれこれ。

看護婦さんには、注射の痛いのと痛くないのといるのがよく分かった。しかし、痛くない看護婦さんにだけして貰うことはできなかった。左腕にと注文をつけた。右腕が自由になるからである。点滴瓶をぶらさげる台を右手で押しながら、病院の廊下を歩いて出会う人達に大げさに説明した。夏休みで学生がいなくて見せられないのが残念だった。そんな事をしているので点滴が漏れて、紫色になった。それもみせびらかした（みせびらかすと言うのは名古屋弁かしら）。

ステロイドの点滴は凄い作用だった。多量の発汗で、カッターシャツの襟がびしょりになる。暑い日ならネクタイまで濡れる。食欲も凄くて、大層食べるからズボンがきつくなった。抗潰瘍薬は併用している（大量のステロイドでは胃潰瘍になることがあるのです）。午後12時位に寝ついても、午前2時～3時には突然、はっきりと目がさめてしまって全然眠くない。

あ、これだったんだ。私がやたら気分がハイになっているいろんな事をしたのは。全身の血流がさかんになって汗が増えたり、脳の血流が増加して頭脳が明晰になったんだ。

オリンピックの頃で、夜遅くまでTVを見ていて右側からだけ冷房にあたったのが原因だったのだろう。病人でもこんなにハイになって気分が良いのだから

らドーピングが行われるはずだと感じた。

当初の計画通りにステロイドは漸減し、諸症状も消失していった。顔も対称になり、味も回復し、ロレツ不全も無くなった。さかんだった血流も元通りになったのだろう、頭脳明晰だったのも元通りになってしまった。

主治医に廊下で会った。すっかり直りましたが、再発する事があるんでしょうか。無い、を期待していたのだが、あり得ますだった。

冷房を一方向からだけ受けながら、夜中までTVを見るのは4年後も、もう止めよう

(愛知医科大学教授放射線医学教室)